

令和 6 年度エゾシカの生息状況モニタリングの実施結果

1. ロードセンサス

(1) 調査目的

対策地域での捕獲前後におけるエゾシカの生息状況の変化等を把握するため。

(2) 調査方法

右岸堤防道路を車で低速走行し、目視（及び双眼鏡）で発見したエゾシカをカウントし、発見した位置と併せて記録した。日没後はスポットライトを使用し、照射範囲で発見したエゾシカをカウントした。年次比較を行うため、毎年同じ調査方法で月 1 回、朝（日の出 1 時間後）、昼（12 時）、夕方（日没前 1 時間）、夜（日没後 1 時間）の時間帯に実施している。

ロードセンサスの結果を捕獲効果の検証に活用するため、ArcGIS Field Maps を用いて、右岸堤防沿いで発見したエゾシカの位置と頭数を記録した。今後は、捕獲実施箇所を中心とした半径 1 km 圏内の観察頭数を集計し、捕獲前後で比較して捕獲効果の検証を図る。

(3) 調査結果

令和 6 年度の各月（10 月～1 月）の最大観察頭数を記録した時間帯の結果を図 1～図 4 に示す。各月の最大確認頭数は、10 月が 554 頭、11 月が 533 頭、12 月が 503 頭、1 月が 475 頭で、どの月も前年よりも増加していた（表 1）。しかし、昨年度の最大数にエゾシカの一般的な自然増加率である 1.2 をかけた値より少ない。

複数年にわたって捕獲を継続しているサケマス分岐においては、捕獲実施中の 1 月の最大観察頭数が令和 4 年度 96 頭、令和 5 年 134 頭、令和 6 年度が 178 頭と自然増加率（20%）分を上回った。

この要因としては、周辺からの流入や誘引の効果、釧路湿原の自然増加率が 1.2 より大きくなっている可能性などが考えられる。

表 1 ロードセンサスにおける最大観察頭数の比較

	令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度
	観察数	観察数×1.2	観察数	観察数×1.2	観察数
10 月					554 頭
11 月	424 頭	509 頭	504 頭	605 頭	533 頭
12 月	473 頭	568 頭	453 頭	544 頭	503 頭
1 月	345 頭	414 頭	416 頭	499 頭	475 頭

捕獲実施箇所を中心とした半径 1 km 圏内におけるエゾシカ発見位置と頭数

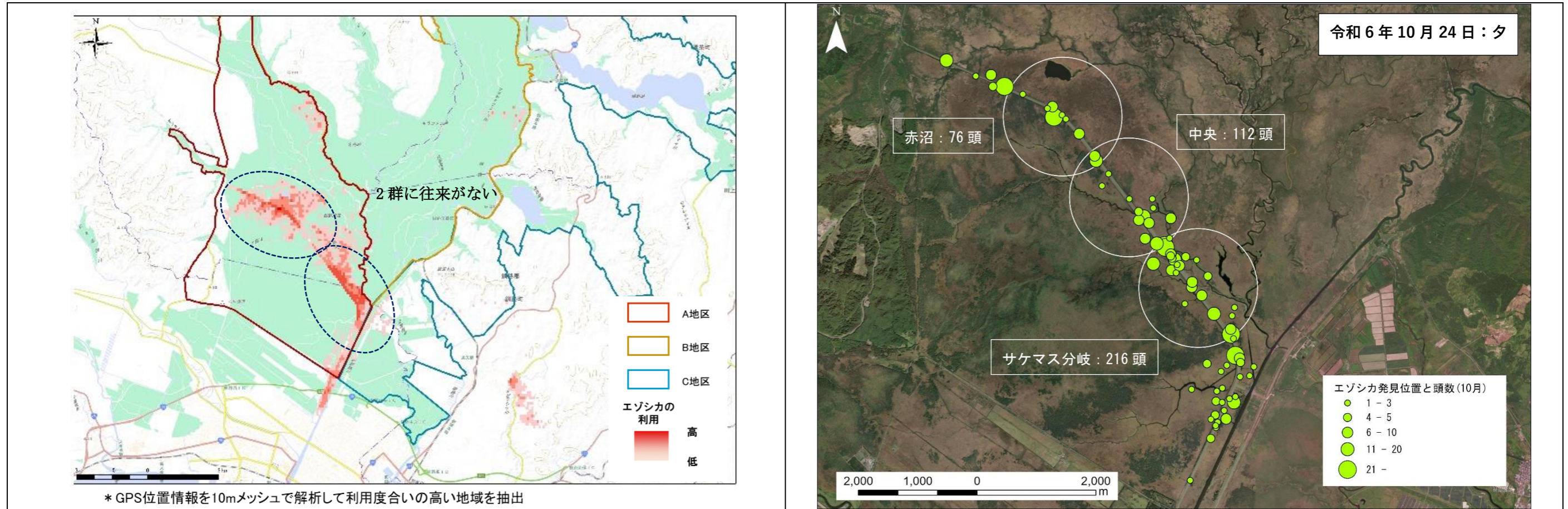


図1 10月のエゾシカ発見位置と頭数（令和6年度）

<参考>A地区のエゾシカの生息地利用（右岸堤防のGPS首輪調査：15個体）10～12月（秋）

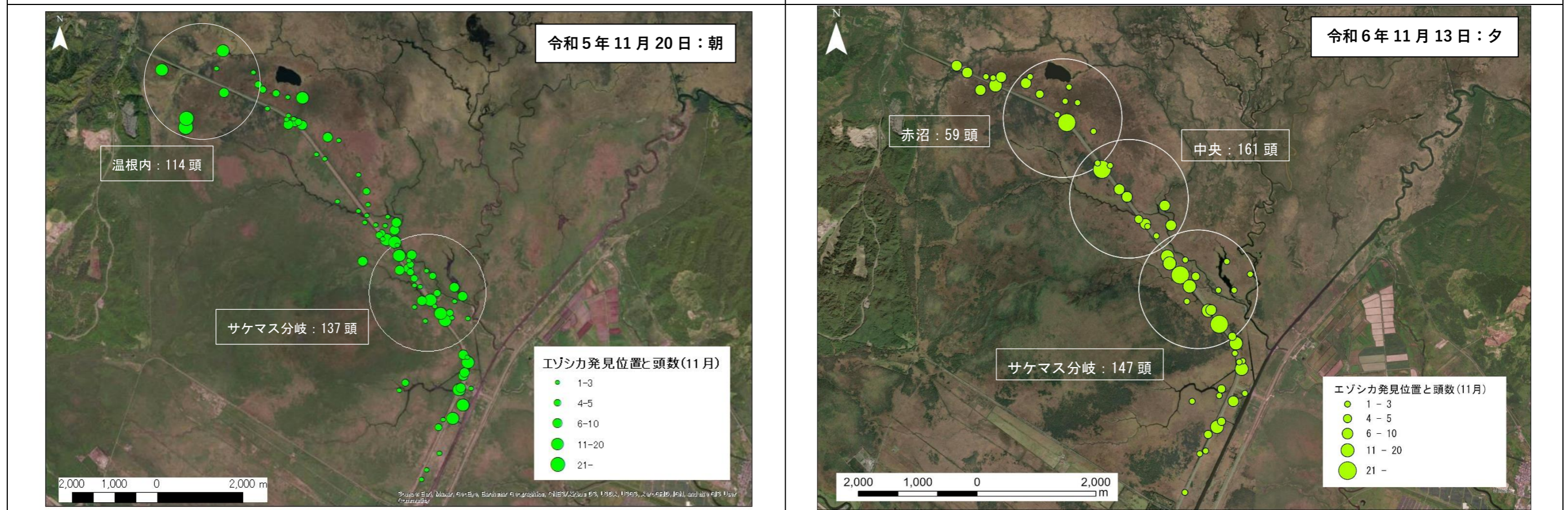


図2 11月のエゾシカ発見位置と頭数（左：令和5年度、右：令和6年度）

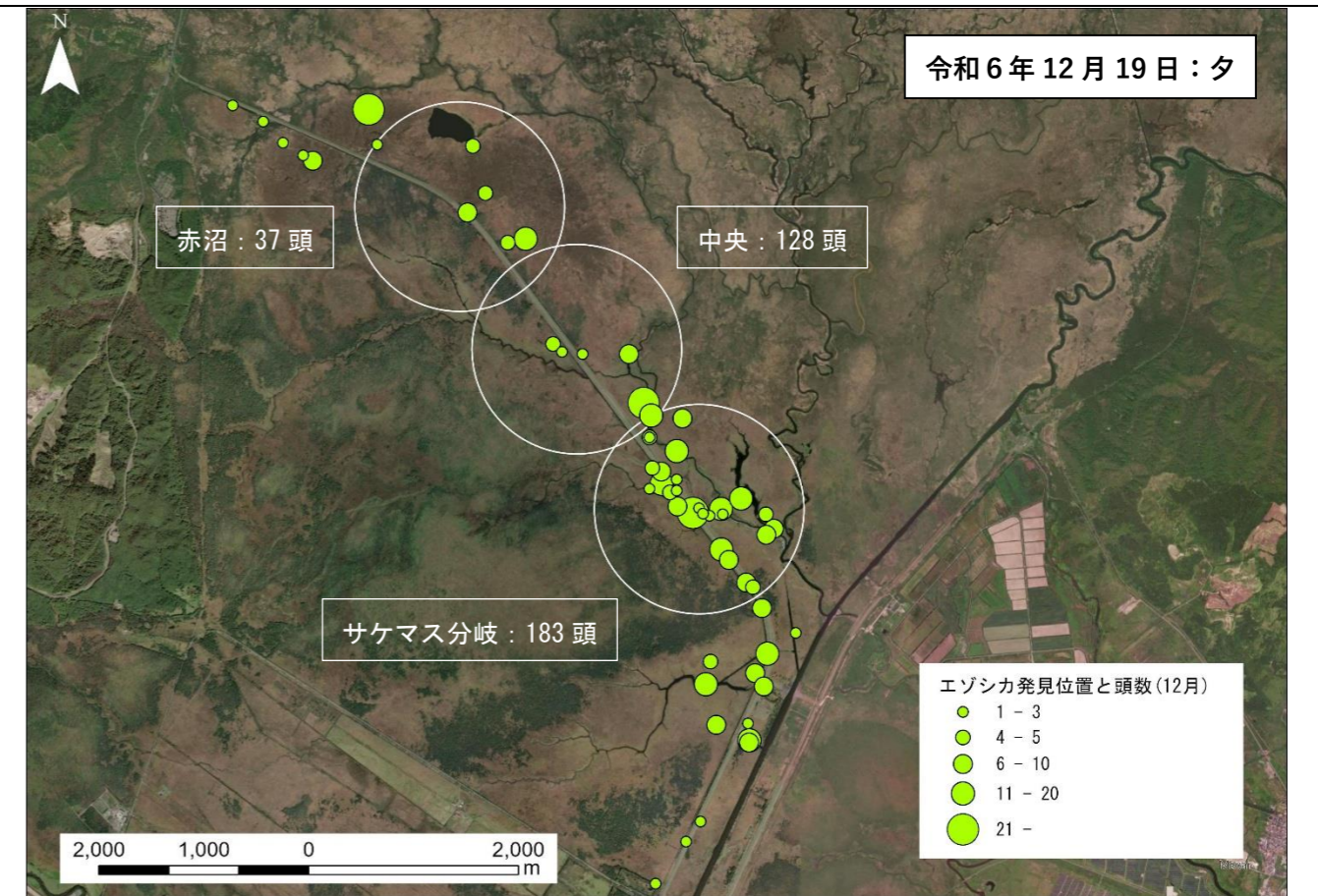
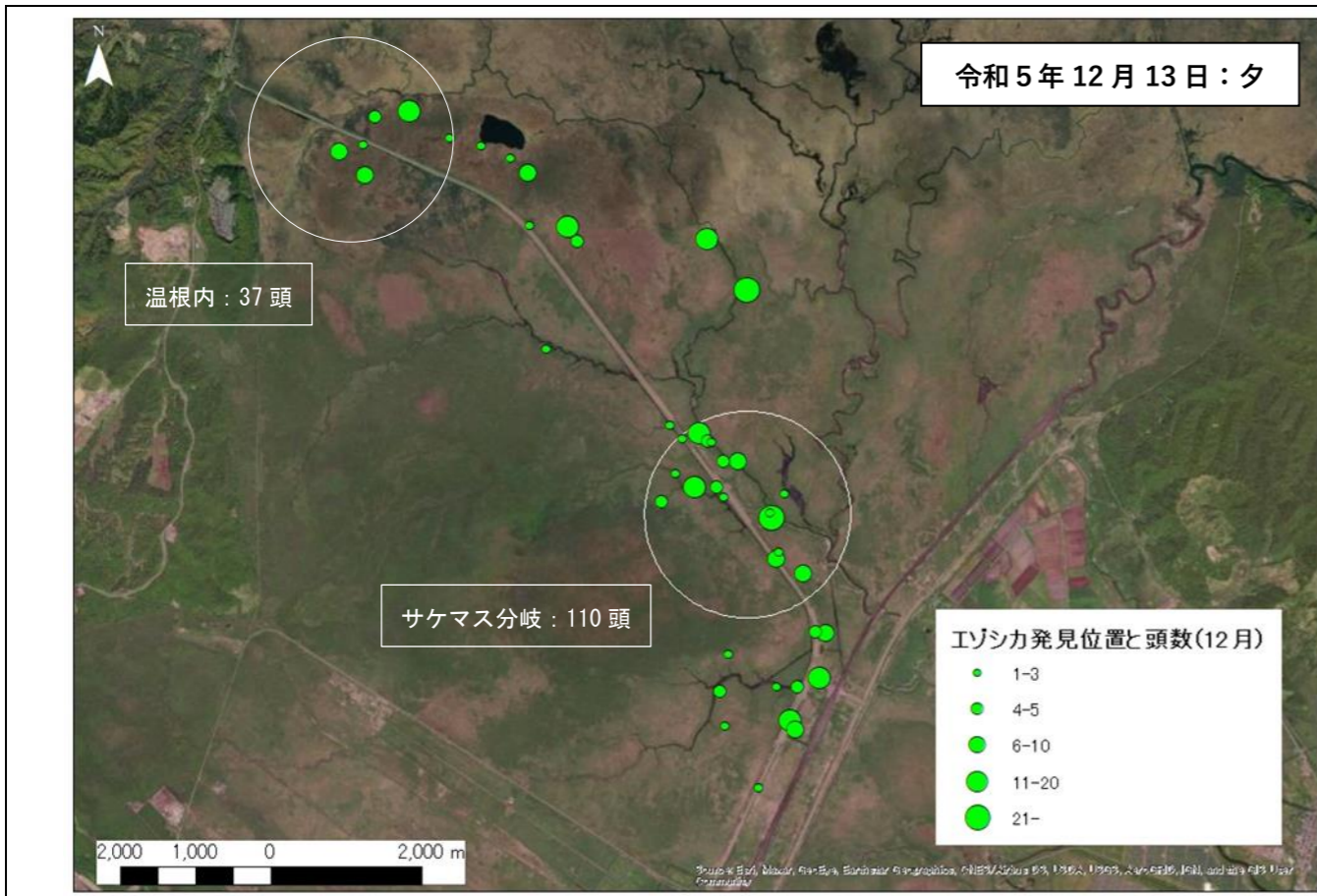


図3 12月のエゾシカ発見位置と頭数 (左：令和5年度、右：令和6年度)

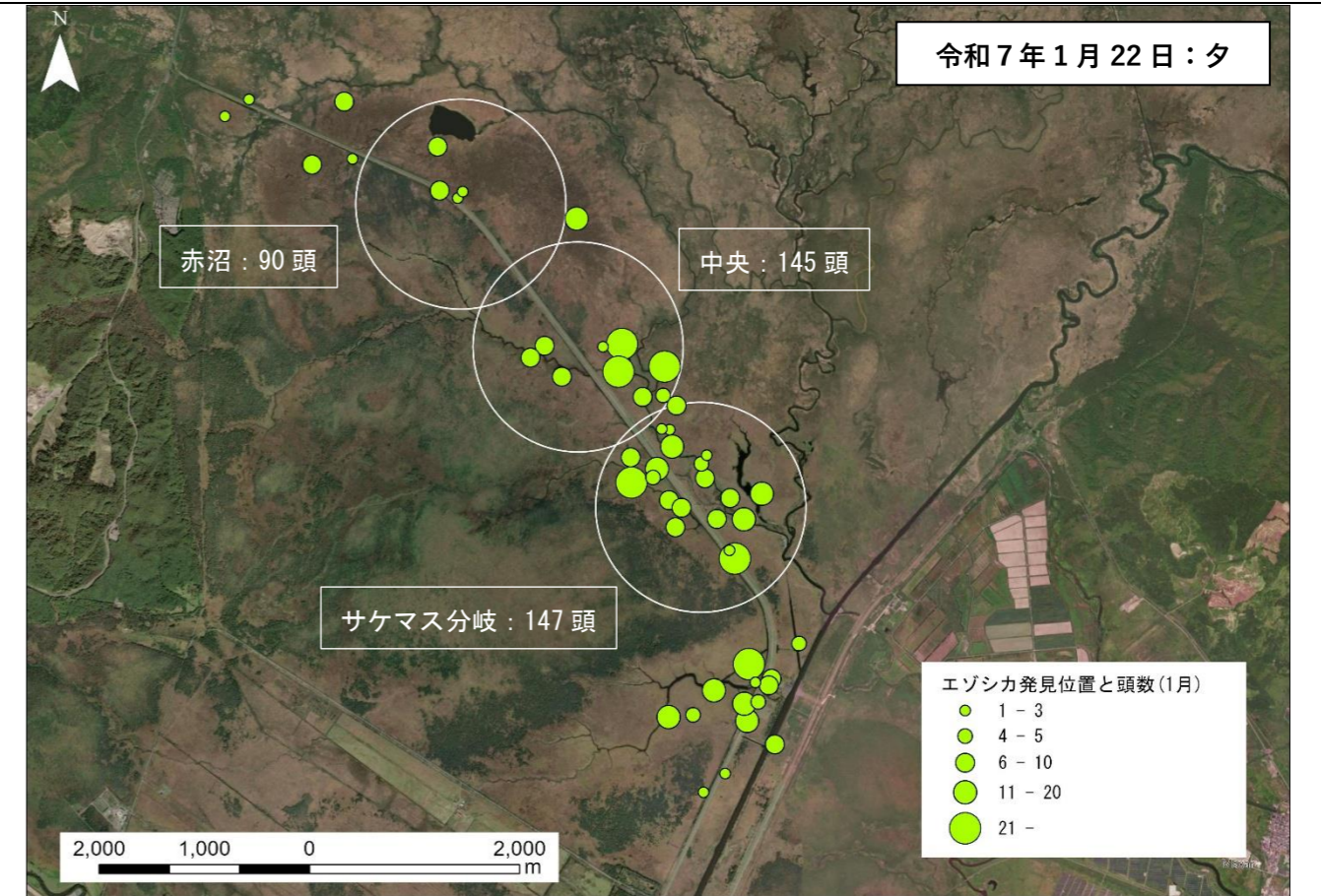
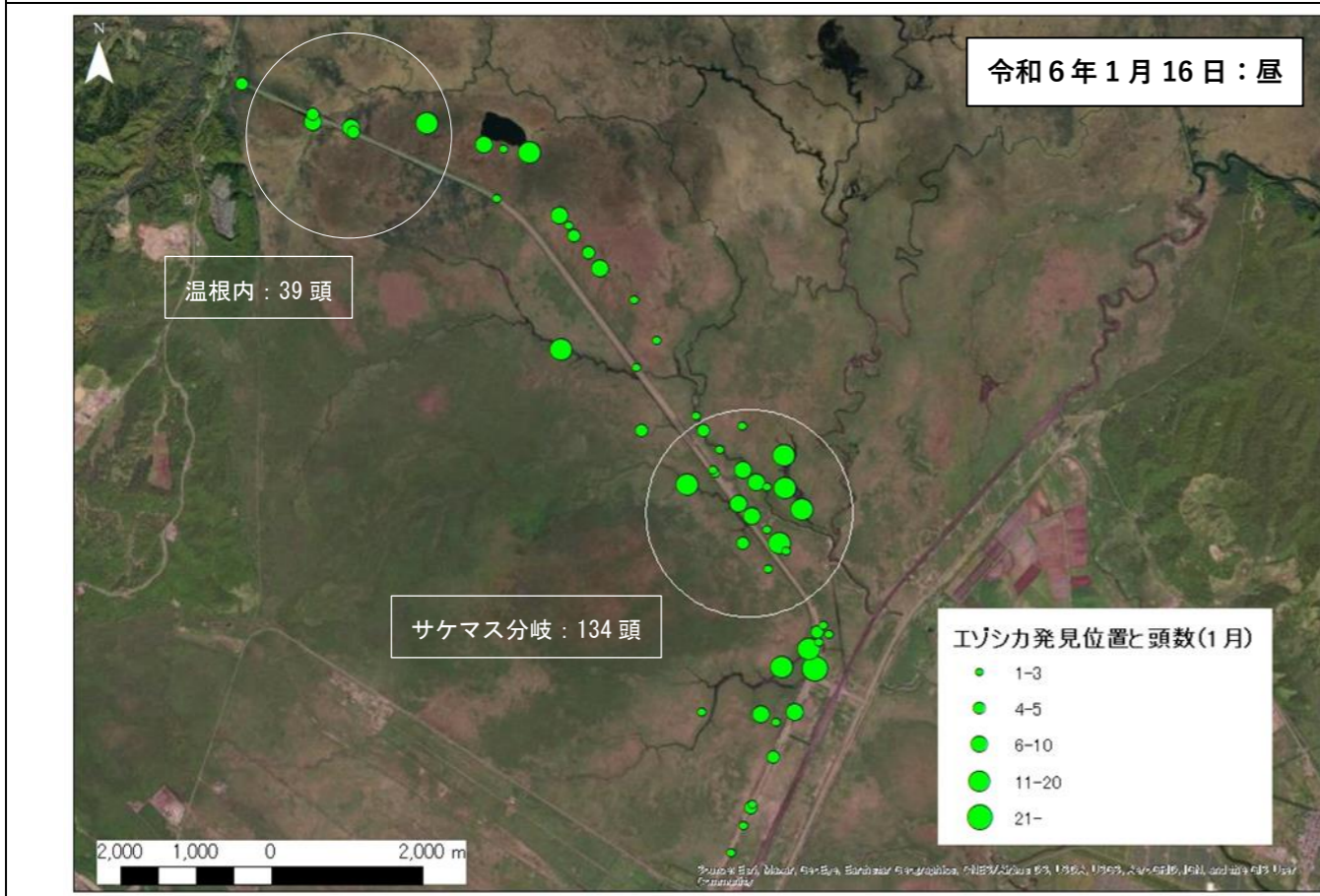
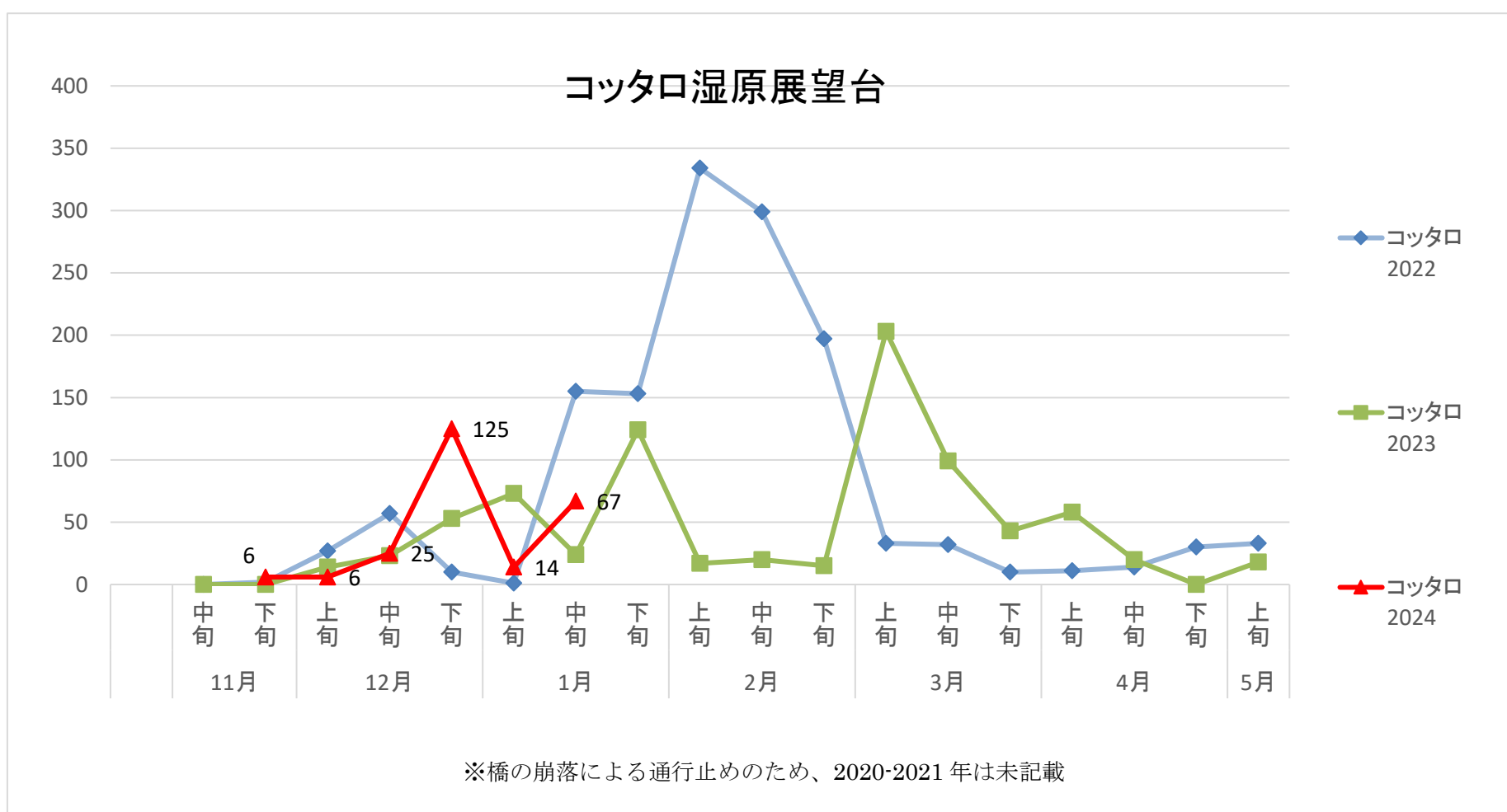
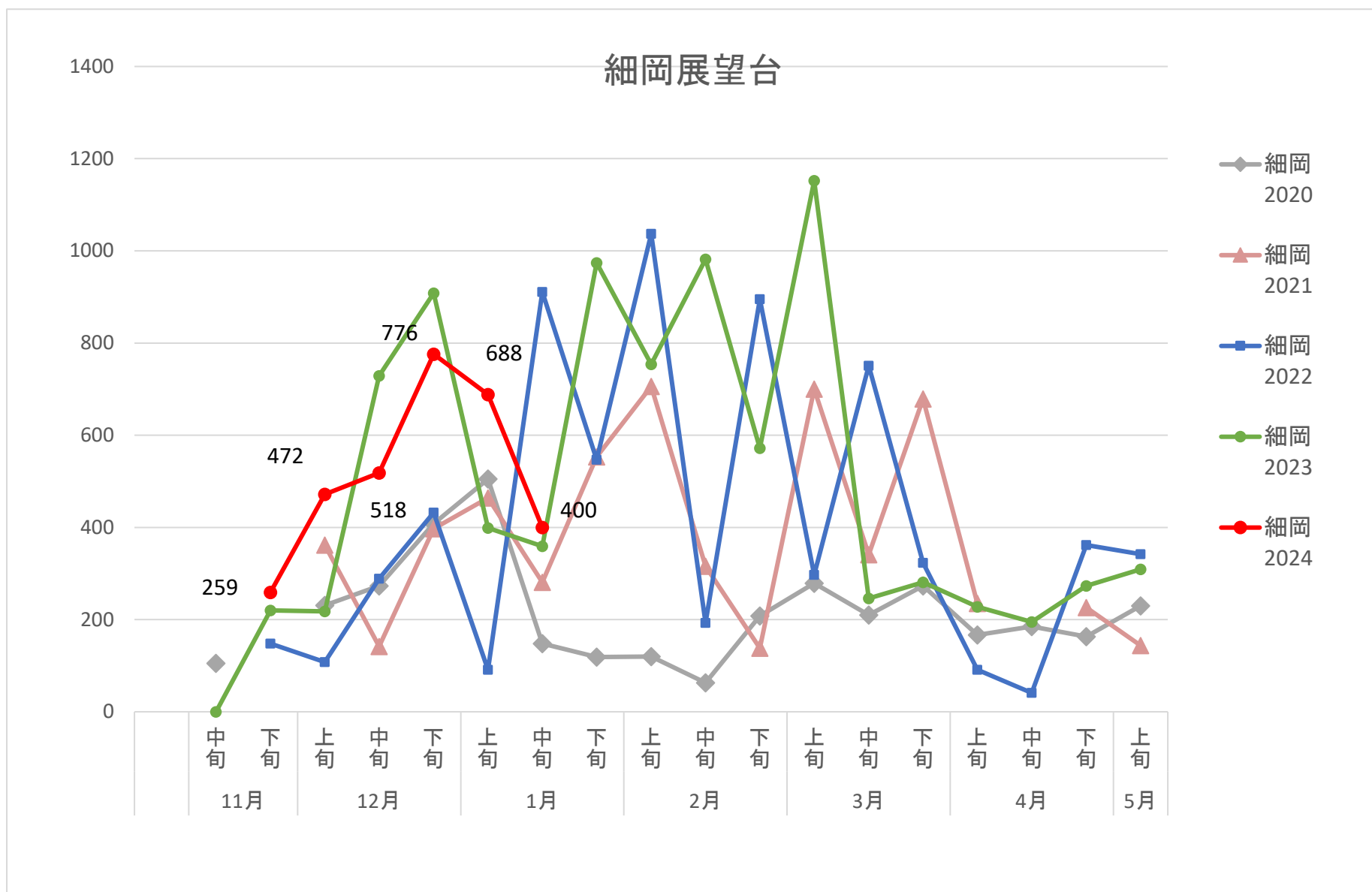
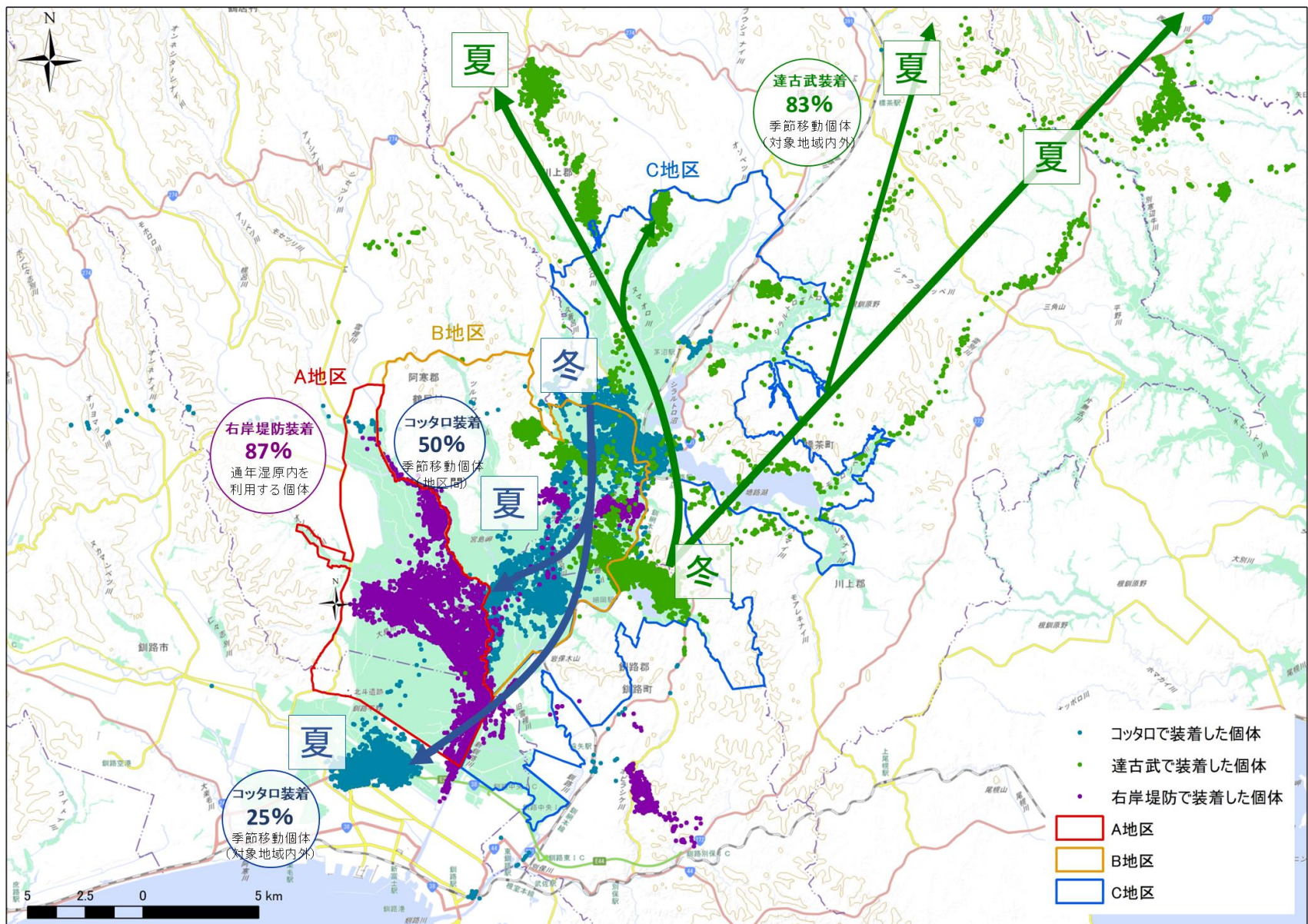


図4 1月のエゾシカ発見位置と頭数 (左：令和5年度、右：令和6年度)



<参考>GPS 首輪調査による釧路湿原におけるエゾシカの生息地利用



<参考>エゾシカ航空カウント調査結果

航空カウント調査
2021.2 実施

2015年との比較

①推定密度 7.8頭/km² → 1.9倍 14.8頭/km² ②推定頭数 2,246頭 → 2.0倍 4,479頭

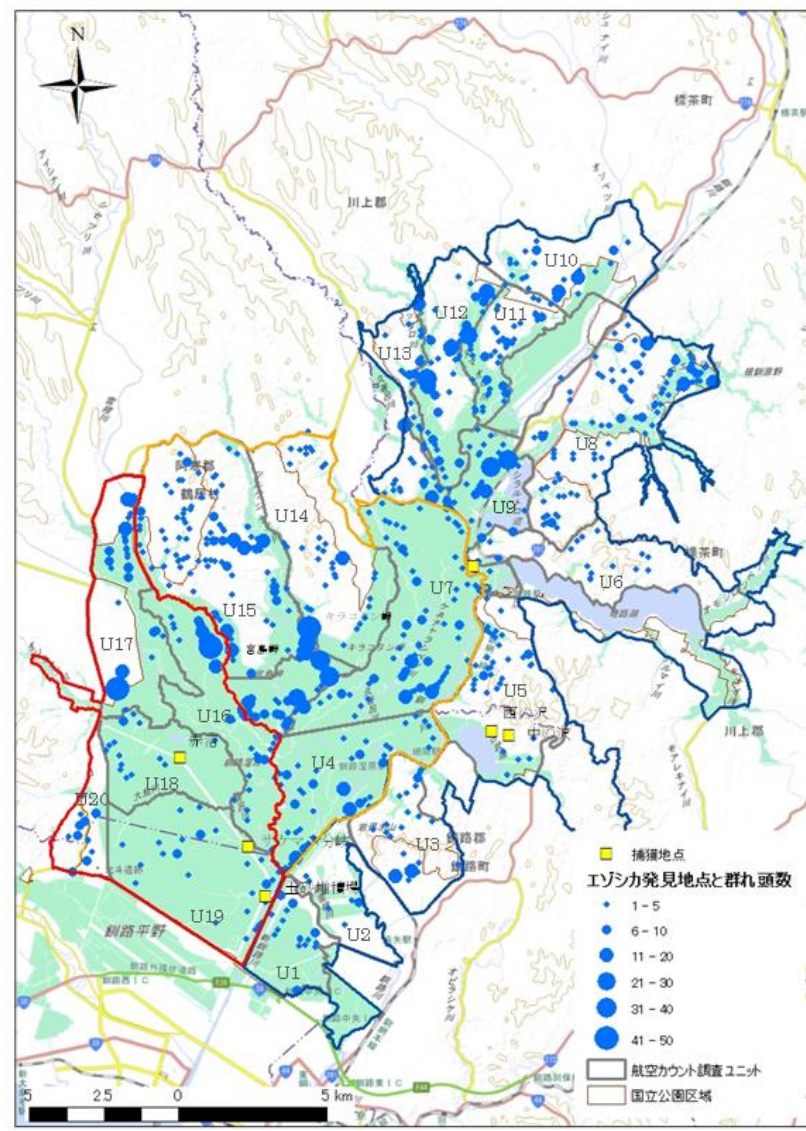
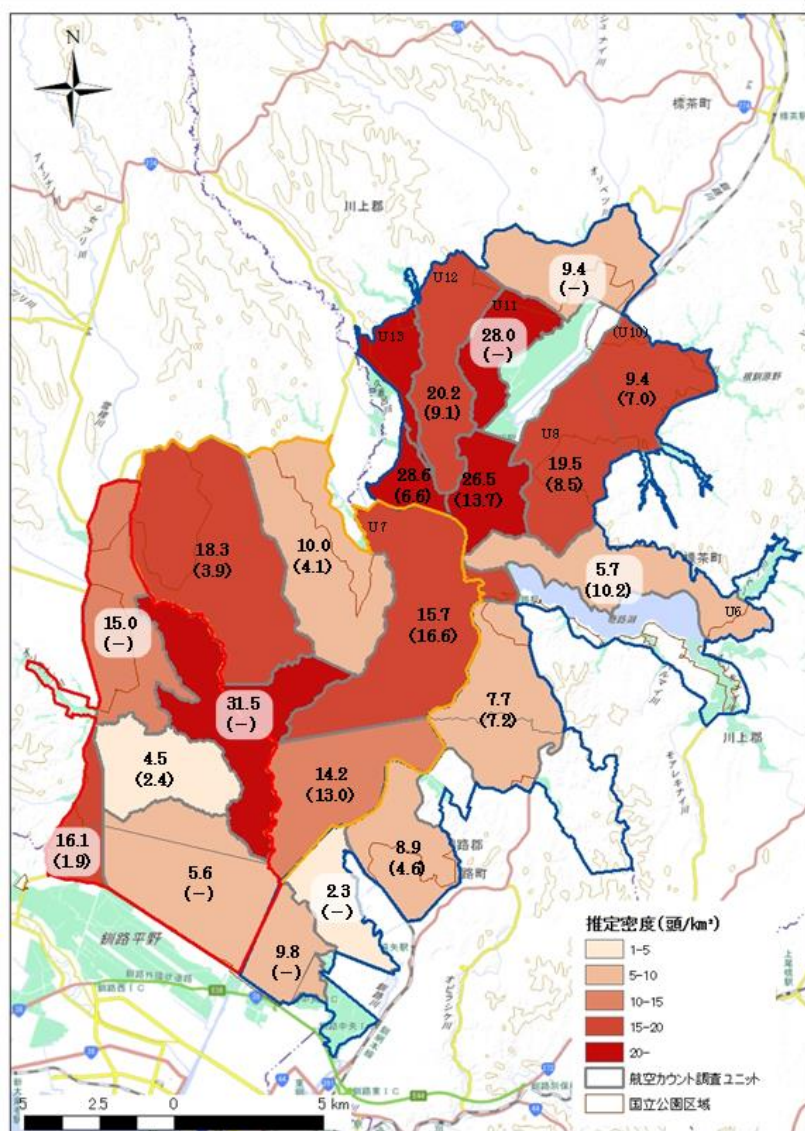


図1. 各航空カウント調査区ごとのエゾシカ推定密度(2021年調査結果)
※括弧内は2015年調査結果、「-」は2015年調査未実施。

図2. 航空カウント調査区におけるエゾシカ発見地点と群れ頭数(2021年調査結果)